

「足の震えが止まらない」。新社会人が命綱を頼りに帆船「日本丸」のマストによじ登る。先月上旬、中小製造業者でつくる横浜市工業会連合会は、会員企業の新人社員44人を対象に1泊2日の船上研修を行った。

日本丸は横浜が母港。参加者は甲板磨きやポート訓

地元の宝 成長の糧に



高さ約10mのマストの上。思わず足がすくむ（横浜市西区）

練、マナー講習などを学ん待する。参加した田中千尋「船での体験を通じて自分度胸がたった。仕事で嫌い立たせた。」と自らを奮

だ。同会の佐藤信夫会長はさん（22）は「高所に登った経験を通じて自分度胸がたった。仕事で嫌い立たせた。」と自らを奮

ている。徳島市では毎年、新人職員が阿波おどりを学んでいる。人事担当者は「座学だけでなく体を使うので内容にメリハリがつく。改めて地元に着用を持つきっかけにもなる」と話す。

今月下旬に、世界遺産の熊野古道で研修を予定しているのは三菱電機冷熱システム製作所（和歌山市）。2才の土を新人社員が担いで運び、来訪者が歩きやすいように補修作業をする。いにしえの山道で、同期と共に流した汗が互いの絆を強くする。

（写真・文 山本博文）

おわり